

## 中山間地にある農村の新たな振興策

### New promotion measures for rural areas in mountainous areas

鈴木健一

(Suzuki Kenichi)

#### 1. はじめに

コロナ禍により人々の生活スタイルは大きく変化してきている。過疎化が進む中山間地に、現在住む人々の生活様式をあまり変えずに、どのような方策を立てアピールすれば若い人たちの流入が図れるのか、自治体からの移住助成制度もある群馬県高崎市倉渕町をモデルに、計画に必要な要素、立案までの経緯と実施した内容、その結果などを、一連のものとして継続して報告したい。

#### 2. 高崎市倉渕町の概要

高崎市倉渕町は、1955年(昭和30年)に群馬郡倉田村と碓井郡鳥渕村が合併し、群馬県群馬郡倉淵村になり、その後、2006年(平成18年)に高崎市に編入され、群馬県高崎市倉渕町となり現在に至っている。町域は127.26km<sup>2</sup>と広いが、その85.5%が山林であり、町の中央を通る国道406号と利根川水系の烏川に沿った形で集落が細長い形で点在しており、烏川に沿った低地と河岸段丘に耕地があり、天日干しで仕上げる「はんでえ米」や「陣田ミョウガ」に代表される農産物が多く生産されている。

#### 3. 倉渕町の人口減少

倉渕町においても少子高齢化は進んでおり、2015年(平成27年)9月現在、高齢化率は39.76%と高崎市で最も高く、人口は3776人、高齢者1543人、世帯数1485である。この数字を1995年(平成7年)の人口5175人、高齢者1318人、世帯数1504と比較すると、平成初期の世帯主や跡継ぎがそのまま高齢化し、若い世代が著しく減少していることが推測できる。

#### 4. 倉渕町の振興資源

倉渕町はどこにでもある過疎化に悩む中山間地である。その倉渕町への交通アクセスを見てみると、首都圏への通勤者が多い新幹線高崎駅に隣接する安中榛名駅が、町の中心ともいえる高崎市倉渕支所(旧村役場)まで車で20分程度(約13km)のところ position している。また、八ッ場ダムの工事用道路として供用されていた大柏木川原湯トンネルが2020年(令和2年)12月に一般供用化されたことにより、県北地域の八ッ場ダム、草津方面へのアクセスが大幅に改善されている。この交通網こそが倉渕町の若者人口増加につながる有効な振興資源と考えられる。

#### 5. 倉渕町の道祖神

関東甲信越のなかで、道祖神が多い地域は長野県と群馬県になるが、とりわけ、倉渕

町には寛永2年（1625年）の銘から、全国で確認できる道祖神として最も古いとされる権田熊久保の道祖神をはじめ、町内の77か所、114体の道祖神が存在している。倉渕町の道祖神に関する先行研究としては鈴木英恵氏のものがあるが、町内の道祖神は、現在でも、地域の人々が最も親しみやすい信仰対象として祀られており、御幣やミカン等のお供えがなされている。また、2001年（平成13年）以降、毎秋、町内を散策しながら倉渕の特色ある景観や石仏を地元の中学生在が紹介する「道祖神の里めぐり」が行われており、道祖神は時代に即応した形で継承され大事にされてきていることが示されている。筆者の思い出もあるが、この道祖神とのかかわりを、地域住民の方々の生活様式の変わらぬ尺度として導入したい。

## 6. 今後の展開

倉渕町で営まれている、道祖神とのかかわりに代表されるような、現在の生活を変えることなく、例えば、既存のクライנגルテンを利用した農村生活への導入など、どのような振興策を立案したかを、その経緯を含め継続して来年度も報告したい。



図-1 倉渕町位置図 Kurabuchi Town Location Map

国土地理院地図 電子国土 Web より（倉渕町の位置とその名称は筆者が追加）



写真-1 倉渕町の日常 Everyday life in Kurabuchi Town

## 引用文献

鈴木英恵：群馬県内における道祖神の伝播 神奈川大学『歴史民俗資料学研究』2009年